



安全管理セミナーを実施して

和歌山県田辺市消防団

1 はじめに

「田辺市」は、平成 17 年 5 月 1 日に田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村及び本宮町が合併し誕生しました。

本市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置し、市域の海岸部に市街地を形成するほかは森林が大半を占め、総面積約 1,027km²（東西約 45km、南北約 46km）、和歌山県全域の 22% を占める広大な圏域となっています。また、気候は海岸部の温暖多雨な太平洋型気候から、山間部における内陸型の気候まで広範囲にわたっています。

観光スポットとしては、次の 2 か所を御紹介いたします。

(1) 世界遺産「熊野古道」

平成 9 年 7 月、世界遺産に登録された「紀伊山



熊野古道

地の霊場と参詣道」とは、熊野信仰の中心「熊野三山」、真言密教根本道場「高野山」、修験道の聖地「吉野・大峯」とそれらを結ぶ参詣道の「熊野古道」とをいいます。「熊野古道」にも、田辺から熊野本宮に向かう「中辺路」（なかへち）、田辺から海岸沿いに那智へ向かう「大辺路」（おおへち）、高野から熊野本宮に向かう小辺路（こへち）、吉野から熊野本宮に向かう「大峯奥駈道」などいくつかのルートがありますが、そのうち、田辺から熊野本宮に向かう中辺路の大部分が田辺市にあり、その道中には「熊野九十九王子」が設けられており、熊野詣の旅人や貴族が休憩や宿泊をとったり、ときには歌会なども開かれ、長い旅の疲れをほぐし、旅の安全を祈ったといわれています。

(2) 天神崎

ナショナルトラスト運動の先駆けとしてその名を知られるようになった「天神崎」は、緑豊かな丘陵部と干潮時に顔を出す 21 畝の平らな岩礁で形成されています。市街地に近接しているにもかかわらず、豊かな自然が残されているのが特徴です。

2 田辺市消防団の沿革

合併に伴い 5 つの消防団が統合され、新「田辺市消防団」が発足しました。新「田辺市消防団」の体制は、団本部の組織下に旧市町村の消防団を 5 つの支団として位置付け、1 団本部 5 支団 31 分団（女性分団を含む）とし、条例定数についても合併前の各消防団の合計数である 1,050 名体制を維持しています。

3 平成23年台風12号による災害

平成23年9月に当市を襲った台風12号に伴う記録的豪雨により、市内各地で河川氾濫による水害や山腹崩壊をはじめとする土砂災害等が発生し、死者8名行方不明者1名、家屋等の被害は1,000棟以上と想像をはるかに超える歴史的な大災害となりました。

消防団は、9月2日から12日までの11日間で延べ2,285人が出動し、避難誘導、人命救助、行方不明者捜索などの活動に当たりました。また、



台風12号での浸水状況

災害終息後も災害ボランティアの一員として各地区の復旧活動に従事しました。

4 安全管理セミナーを実施した経緯

当消防団での過去5年間の公務災害の状況を見ますと、平均で毎年3件程度発生しており、また、公務災害の発生に至らない「ヒヤリハット」事例も多数報告されています。

このような状況の下、平成17年の新市消防団発足後の重点施策である「事故ゼロ」を目指した取り組みの一環として、平成18年度「健康づくりセミナー」、平成20年度「S-KYT研修」、平成22年度「安全管理セミナー」及び「健康セミナー」を実施しており、平成24年度にあっても「安全管理セミナー」を再度実施し、安全管理に対する継続的な取り組みを進め、「事故ゼロ」の達成を目指しています。

5 安全管理セミナーを実施して

平成25年2月17日に消防基金の多々羅（たたら）講師を招き安全管理セミナーを実施し、消防



台風12号での消防団の活動の様子

団幹部約 60 人が講師の熱意あふれる講演に熱心に耳を傾けました。

セミナーでは、消防団活動における公務災害の発生状況を踏まえ、事故発生の要因とそれを防ぐための予防策、またふだんからの健康管理などについて、具体的な事例を交えながら講演いただき、参加した団員からも、「具体的にイメージできて分かりやすかった」、「安全管理や予防対策について重要性を再認識できた」、「今後も継続して安全管理セミナーなどの研修機会を設けて多くの団員が受講すべきである」などの意見が寄せられました。

6 今後の取り組みについて

団員の皆さんには、それぞれの生業を持つ中で、「自分たちの街は自分たちで守る」という消防精神の下、地域の安全・安心のため昼夜を問わず災害活動に従事していただいています。この崇高な消防団の使命達成のためには、ふだんから健康・体調管理に努めるとともに、災害活動時には安全管理や危険回避を団員一人一人が意識して行動することが重要となります。

そのような考えの下、今後もなおいっそう「事故ゼロ」を目指した取り組みを継続・強化していきたいと考えています。



セミナーの様子(指差し唱和)



セミナーの様子